

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が主体的に学習に取り組み、分かることが実感できるような、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②外部の教育資源を活用した幅広い教育課程を編成する。</p>	<p>①組織的な授業改善の目標を「生徒主体の授業展開」と定め、生徒が主体的に参加でき、チームティーチング方式を生かす展開方法を追及する。</p> <p>②地域の豊かな人材資源を活用し、教育課程を充実させる。</p>	<p>①総合学科の特性を活かし、チームティーチングによる授業展開など、生徒が主体的に参加できる環境を整備し、生徒それぞれの理解力やペースに合わせた課題設定や指導を行う。</p> <p>②豊富な知識・経験を持つ地域住民の方を招き、「社会福祉基礎」「生活支援技術」等の専門科目や、「美容講座」「職業キャリア支援講座」等の校外講座を開設し、教育内容を充実させる。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目6「生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている」の評価が、3.6以上(4点満点)になったか。</p> <p>②幅広い分野の人材を招聘し、総合学科としての教育内容に厚みをつけることができたか。</p>					
2 生徒指導・支援	<p>①個々の生徒の状況掌握と情報共有によるきめ細かな指導体制を推進する。</p> <p>②自己肯定感の醸成による問題行動の未然防止に努める。</p>	<p>①生徒一人ひとりの情報を的確に把握して課題解決にあたる</p> <p>②支援のあり方について理解を深め、生徒個々の自己肯定感の醸成に向け、自ら考え行動する能力の育成に向けた支援の方策を練る。</p>	<p>①生徒の支援に必要なDATAの蓄積と見える化に向け、「個別支援シート」等の検討・作成を行う。</p> <p>②個々の生徒の状況等を把握し、ケース会議等で個々の生徒の特性を把握し職員間での情報共有を図る。頻度の高いケース会議等の開催により、スクールカウンセラー等の専門家や外部関係機関、専門機関との連携を図る。</p>	<p>①「個別支援シート(全生徒一覧)及び、「個別ポートフォリオ」の作成ができたか。</p> <p>②ケース会議を6回以上(昨年度5回)開催し、支援方針を全職員に周知し共通理解することができたか。</p>					
3 進路指導・支援	<p>①基本的な学力を充実・向上させ、進路希望を達成させる。</p>	<p>①社会人としての基本的な学力を身につけさせるとともに、生徒ひとり一人の進路希望が達成できるようにきめ細かな進路指導を行う。</p>	<p>①生徒は自分の進路を実現するために主体的に科目を選択し、チームティーチングによる教科指導を行うことで、基本的な基礎学力を習得させる。また保護者を変え、きめ細かな面談指導を行う。</p>	<p>①生徒は主体的に科目を選択し、チームティーチングにより基礎学力を着実に身につけたか。また年4回面談を行うことで個々の進路希望を把握することができたか。</p>					

		②社会人としての自覚と勤労意欲を育成する。	②社会人として必要な要素を理解し、自覚を持って社会へと出られるよう支援する。	②ハローワークとの連携や、「産業社会と人間」「職業一般」「課題研究」の授業を通して労働法やマナーを指導することで社会人としての自覚を持たせる。	②ハローワークと密に連携を取り、社会人としての自覚を意識させるとともに、就職活動を充実させることができたか。					
4	地域等との協働	①保護者や近隣地域との協力体制を推進し、教育活動を積極的に外部に発信する。	①地域清掃等の地域貢献活動によって、近隣地域に信頼される取組を進める。 ②コミュニティ・スクールのシステム構築を図る。	①地域貢献活動等の機会に、全生徒を積極的に参加させ、事後アンケートにより、生徒の自己肯定感について調べる。 ②学校運営と密接に連携できる形態、地域の人材の有効活用の方策を確立する。	①8割以上の生徒が地域清掃に参加し、自己肯定感を高めることができたか。 ②学校運営協議会を年3回以上開催し、意見を集約することのできる機会を設けたか。					
5	学校管理 学校運営	①職員の学びあいによる人材育成を推進する。 ②外部連携による総合学科高校としての充実を図る。	①総合学科の充実を図るために、職員構成に応じた業務分担を行うとともに、継続的に業務運営できるように引継ぎを工夫する。 ②地域内の専門学校や職業技術校との連携により、総合学科の内容を充実させる。	①職員構成に応じた業務分担を行い、効果的な業務引継シートを作成し、事故不祥事を防止する。 ②専門学校講師の招聘や、職業技術校での受講を通して専門知識を習得し、社会人としての幅広い視野を持たせる。	①全職員が業務引継シートを作成し活用することにより、事故不祥事の件数がゼロであったか。 ②外部講師の講話やや専門技術を習得することで、就職活動等の一助となったか。					